

昭和28年2月20日第三種郵便物認可 毎月1回1日発行
令和4年8月25日印刷 令和4年9月1日発行 第70巻第9号 通巻第831号

不二

一般版

9 / 2022



令和4年度第2回昇格・昇段試験課題発表

公益財団法人 日本書道教育学会

不二
一般版

2022
9月号

公益財団法人

日本書道教育学会

真草千字文（真蹟本）

（聆音） 察理 鑑貌辯色 貽厥嘉猷 勉其祗植 省躬譏誠 寵增（抗極）

察理鑑貌辯色貽厥嘉猷
勉其祗植省躬譏誠寵增
勉其祗植省躬譏誠寵增

（音を聆き） 理を察し、貌を鑑み色を辯ず。厥の嘉猷を貽し、其の祗植を勉む。躬を省みて譏誠し、寵増せば（抗極まる。）

小久保嶺石臨



【用具・用材】

筆 永昌五号

墨 顕微無間

紙 松雪

『真草千字文』 17ページ参照

隋 智永 真草千字文 真蹟本
第一七七句目

省躬譏誠 (躬を省みて譏誠せよ)

〈語 釈〉

落合子健

省ハ視ナリ己ヲ視察スルノ謂ナリ躬ハ身ナリ親ナリ譏ハ譴ナリ誠ハ警ナリ是レ人勤勉力行以テ其業ニ進ミ嘉猷佳謀アリ其功績名聲ノ發揚スルニ及ヒテハ亦小人ノ妬忌ヲ免レ難ク譏姦中傷之レニ乗スルモノハ古今ノ通弊ナリ故ニ細心シテ敬ヲ思ヒ躬親ヲ省察ヲ克クシテ譏誠スヘキヲ謂フナリ

〈大意〉

省は察るの意。躬は身のこと。譏は諷る、誠は戒めるの意。

これより「自己を振り返り、自誠すべきである」となる。

〈解説〉

省：「少」と「目」の組み合わせ。1画目は斜めに。楷書での3、4画目を一つの画で表現するのは筆写体でよく見られる。「目」は縦画だけを書くようにして、「少」とは逆に傾けて安定させる。

躬：「身」と「弓」の組み合わせ。「身」の草書体は「耳」の草書体と良く似ている。2ページ初めの「察理」は前号の「聆音」から続く四字句である。この「聆」を確認されたい。

譏：「言」と「幾」の組み合わせ。この草書の筆順からは「き」の姿が見える。關中本では、「人」のように書く終りの2画は「厶」のように3画で書いている。

誠：「言」と「戒」の組み合わせ。「戒」は隸書からきた筆写体である。横・斜画(戈法・エ・ハの順に書き、楷書にあるタスキ(ノ)は省略されている。

(習い方は24ページ)

漢字半紙（1級Ⅱ昇段課題、2級Ⅴ5級Ⅱ月例課題）

『真草千字文 真蹟本』より「省躬譏誠」の四字の臨書

小久保嶺石臨

省 躬
譏 誠

省 躬
譏 誠

【用具・用材】

筆Ⅱ永昌五号

墨Ⅱ顕微無間

紙Ⅱ松雪

『真草千字文』 17ページ参照

隋 智永 真草千字文 真蹟本

第一七七句目

省躬譏誠（躬を省みて譏誠す）

（語句より）

一七八句目の「寵増抗極」と対句になっ
て、自謙すべきであり、寵（栄誉）が増せば、高慢さが極まる」となる。

（習い方）

○王法による古典的な筆写体の書きぶりを学ぶ。

○戈法（斜画）は動きを持たせて直筆で鋭く運筆する。

省：一画目を跨いで向かい合うように二つの点を打ち、伸び上がった四画目を筆圧を弱めずに直線的に書く。

躬：三画目の起筆は、一画目の収筆や二画目の起筆との間に空間を作り、筆を置くだけにしてすぐに下方へ向かう。最終画は懐を広げる。

譏：筆写体である。么・么・丐・の順。タスキ（斜画）と点は省略。戈法は前の画を受けて逆筆で突いてから直筆で動きをつけて。

誠：隸書体からの形。井はエ・ハに作る。こちらはタスキ（斜画）も点もつける。戈法のハネは品良く小さめに。

（習い方は24ページ）

漢字半紙（6級〜10級）月例課題

「雲浄天高」の四字の倣書。「雲浄」または「天高」の二字を書いたの提出も可。

小久保嶺石書

雲 天
高 浄

〈読み〉

雲きよく天たかし

（虞世南詩に云う「雲既浄而天高」と、より。）

〈大意〉

秋の空が高く澄み渡り、空気がさっぱりしている。

〈解説〉

○坐法を確認し、姿勢は浅めに坐り、前傾し、その戻りで縦画をつくる。

○運筆は意前筆後を心懸ける。

〈書き方〉

雲：雨冠と云の組合せ。雨冠をゆつたりと書き、その中に云を入れる。

「云」の横画の方向に留意したい。浄：三水と争の組合せ「フトコロ」をゆつたりと取る。「争」は筆写体。

天：横画の方向に留意し、払いを暢びやかに。

高：高は筆写体。ハシゴで「高」とする。転折部では腋を開き肩を下げるようにして安定させる。

【用具・用材】

筆 永昌五号

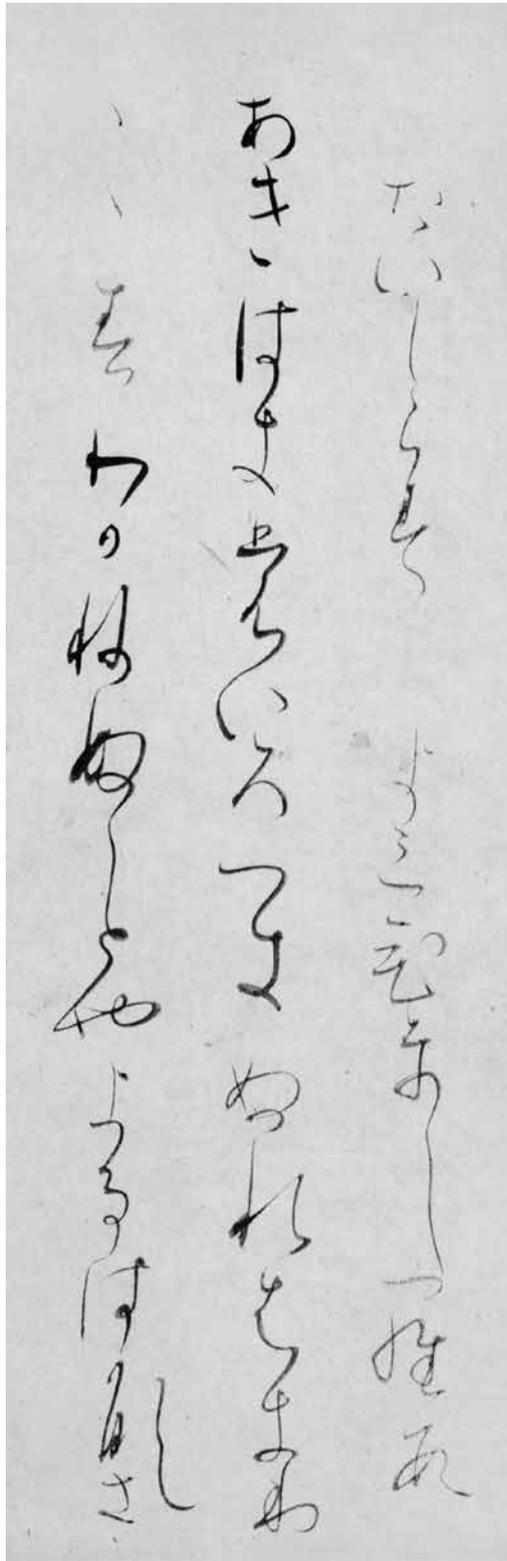
墨 和墨

紙 漢字用半紙

（習い方は25ページ）

かな半紙 専門部(五段く準初段II昇段課題)

左の『関戸本古今集』より「たいしら春」から「可那し支」までの三行を、半紙を縦に使用して臨書しなさい。 ※原寸には拘らなくてよい。



(原寸)

『関戸本古今和歌集』

17ページ参照

〈読み〉

だいしら春^す よ三飛東^{みびと}し羅^{らす}敷

あきは支^ぎ裳^もいろづ支^きぬれ者^ば支^き利

く春^すわ可^がねぬごとやよるは

可^{かな}那^し支^き

〈大意〉

秋葉も色づいて秋も深く
なったので、私が悲しくて夜
も眠れないように、こおろぎ
も、夜は悲しいのであろうか、
こんなになきしきっているが。

題知らず

あき萩^{はぎ}も色づきぬればきりぎりすわがねぬごとやよるはかなしき

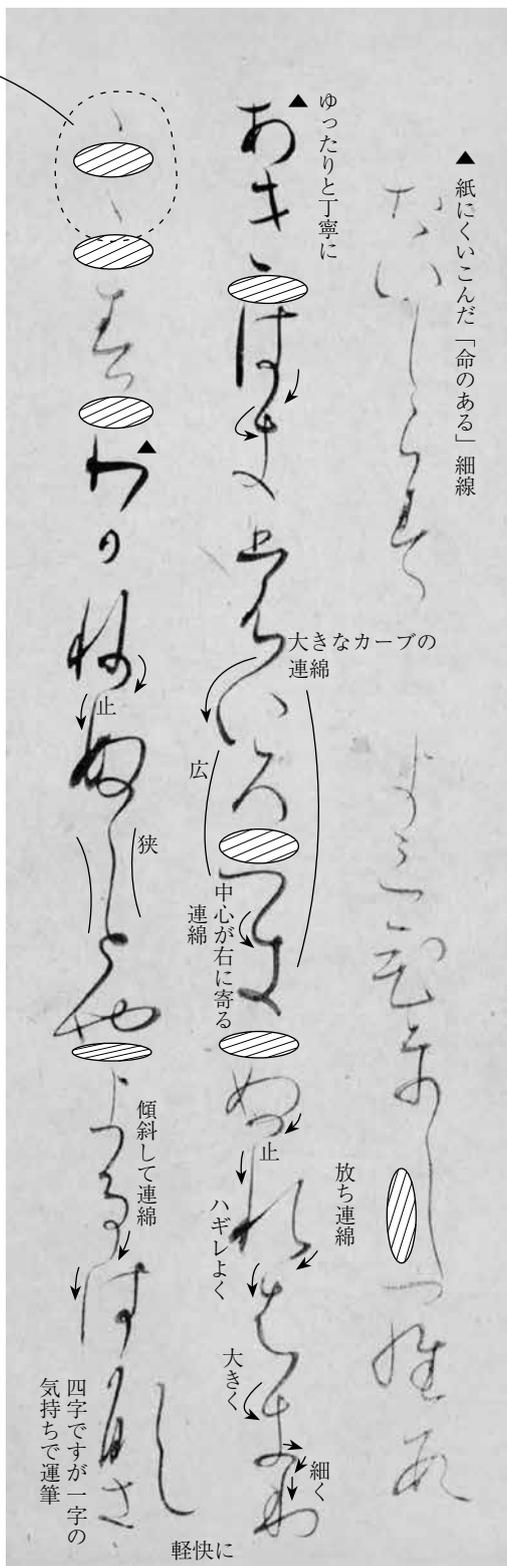
よみ人しらず

(古今和歌集)

巻第四 秋歌上 198)

課題解説（かな半紙五段〜準初段）

十分に含墨した後、余分な墨を反古紙等で除いてから書き始めます。



「支利」の踊り字起筆・送筆・収筆があり、その向きの違いに注意

〈解説〉

今月の課題は、題名、読み人を一行に渴筆で書き始め、歌詩は比較的静かに始まり途中リズムよく大胆に筆を動かして大きな字のまま行尾を巧みに収めています。余白や大きな連綿の動きや放ちながらの連綿・太細・潤濁による墨量の調和がポイントです。ところで、運筆する時、どこを見えていますか。勿論お手本ですが、同時に「書いた線」ではなく、筆（鋒先の開閉具合、腹の活用等）や掌の開閉迄神経が届けば良いですね。筆の上下動つまり書いている筆の動きを確認することが大切になります。

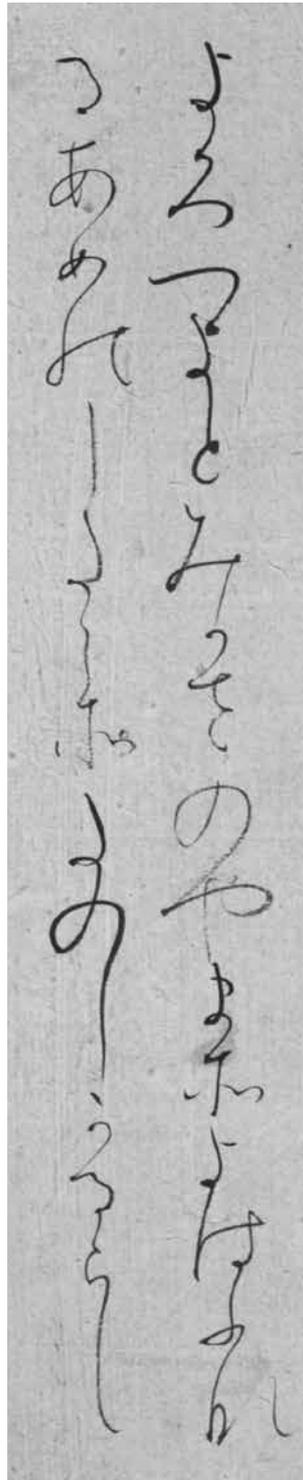
（八尋光華）

【用具・用材】

- 筆Ⅱ かな用小筆
- 墨Ⅱ かな用和墨
- 紙Ⅱ かな用雁皮

かな半紙（1級Ⅱ昇段課題、2級～5級Ⅱ月例課題）

左の図版の「よろづよと」から「多のし可るらし」までを、半紙を縦に使用して臨書しなさい。 ※原寸には拘らなくてよい。



（原寸）

よろづよ
万代と三笠の山ぞ呼ばふなる天の
あめ
下こそ楽しかるらし

『粘葉本和漢朗詠集』

（卷下 祝 776 作者未詳）

17ページ参照

〈読み〉

よろづよとみ可^かさのやま所^せよ
ばふ那^なるあめ能^のし多^たこ所^そ多^たの
し可^かるらし

〈大意〉

「よろづよ」と三笠の山が
叫んでいる声がするようだ。
それは前漢の武帝が嵩山に
登った時の故事と同様に、天
下がよく治まり、人々が喜ん
でいるしるしであろう。

課題解説（かな半紙1級〜5級）

〈解説〉

今月も和歌一首を二行書きにします。

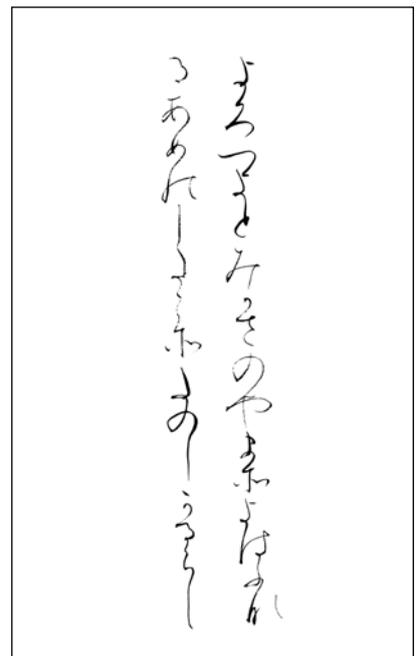
墨色の変化がはつきりしていますので書きやすいかと思えます。

起筆から終筆まで、実によく力がこもっています。細いところでも決して力を抜いていません。心地よいリズムで、自然に無理なく流れていく美しさ。書きこむことでその洗練された美しさを身につけることが出来、やがて創作の段階へと歩を進める時も、俗っぽくならず品位の高い作品づくりが、自信を持って出来るようになります。

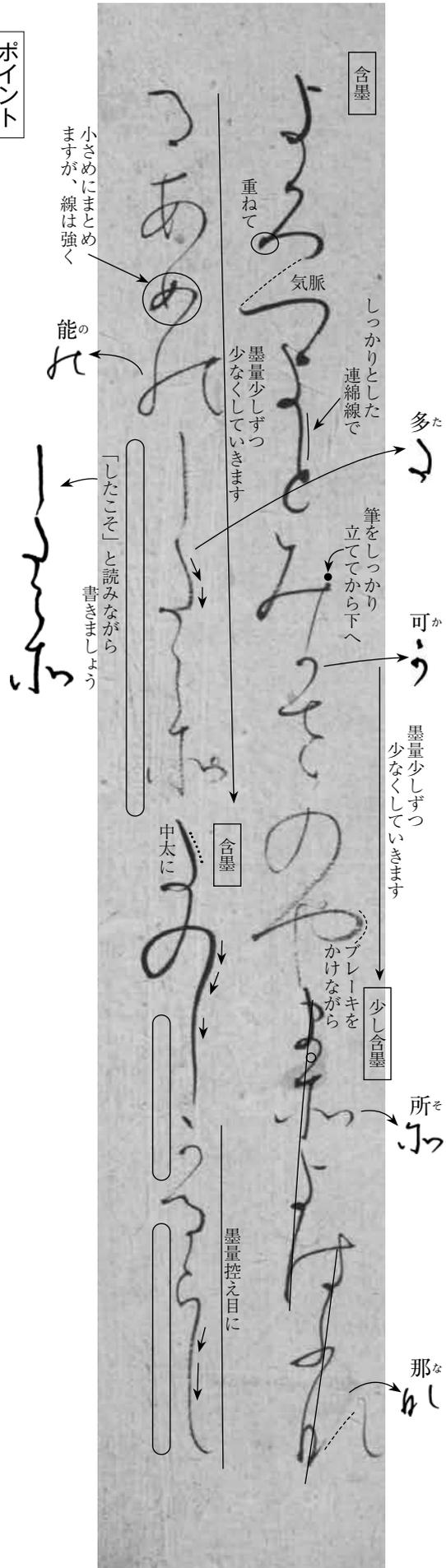
そのご褒美を励みにして、根気よく感覚を鋭くして書きこんで下さい。

（甲谷景子）

〈参考作品〉



（甲谷景子臨）



ポイント

- ① 一字一字しっかりと書きながら、前の字や次の字とのつながりや、隣にくる行にまで意識を向けて書けるようになると、流れが美しくなります。

② 「よ」の書き方



「所」の書き方

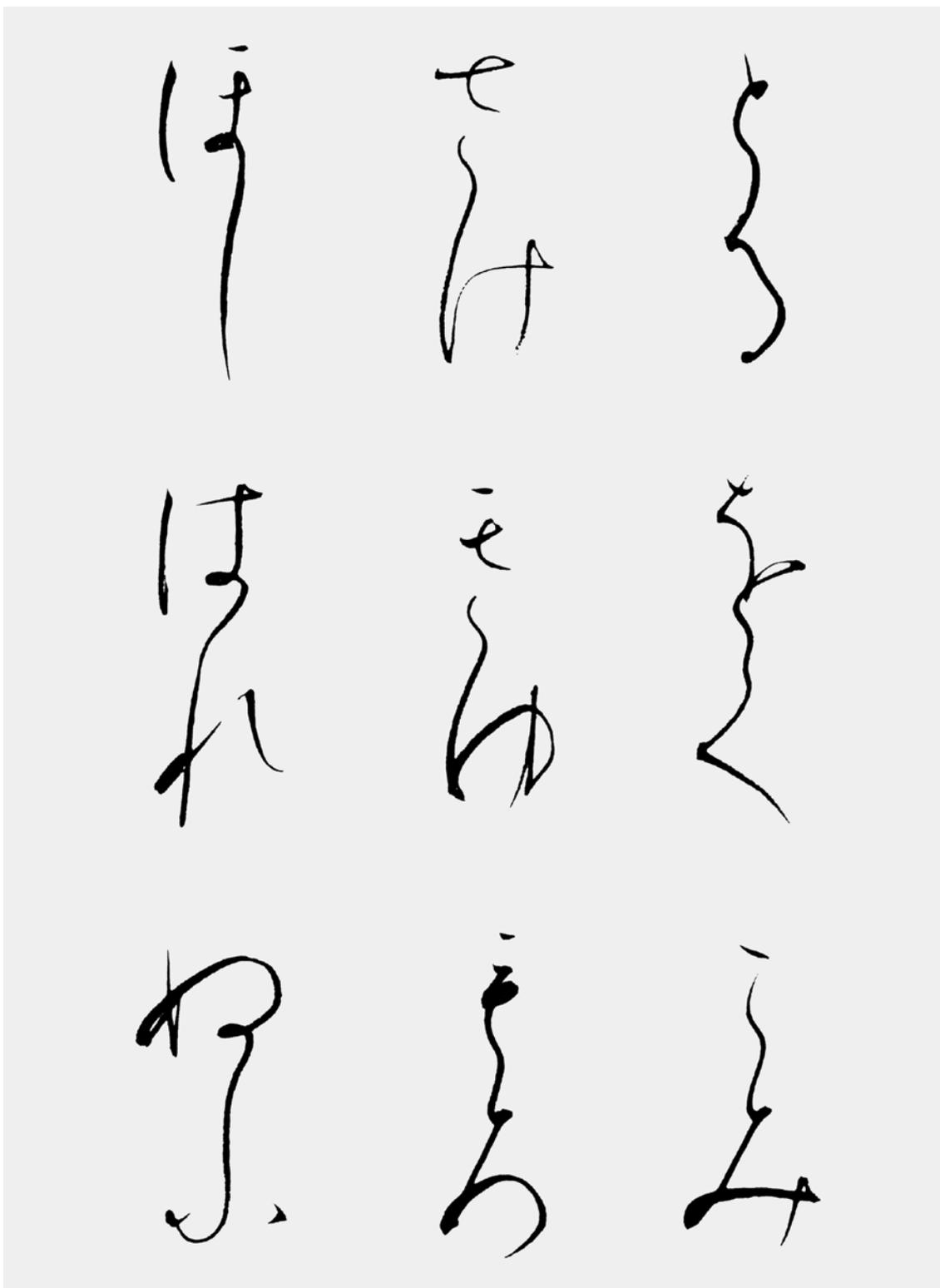


【用具・用材】

- 筆 かな用小筆
- 墨 かな用和墨
- 紙 かな用雁皮

かな半紙（6級〜10級II月例課題）

左の図版の変体がなを半紙を縦に使用して体裁よく書きなさい。



とる を久^く こみ さけ きゆ 毛^もろ ほし はれ ぬふ

〈出典〉

安東聖空「梅雪かな帖(上)」より

今月から連綿を学びます。文字と文字とを続けて書くことを「連綿」、そのつなぐ線を「連綿線」と言います。

連綿には、連綿線を用いた「形連」と、連綿線はなく、上下の文字の筆脈を通して書く「意連」とがあります。ここでは形連の練習ですが、上下の文字の位置関係に注意して連綿して下さい。

これらが複雑に組み合わさることで、かなの流動美が生まれます。（川島史子）

【用具・用材】

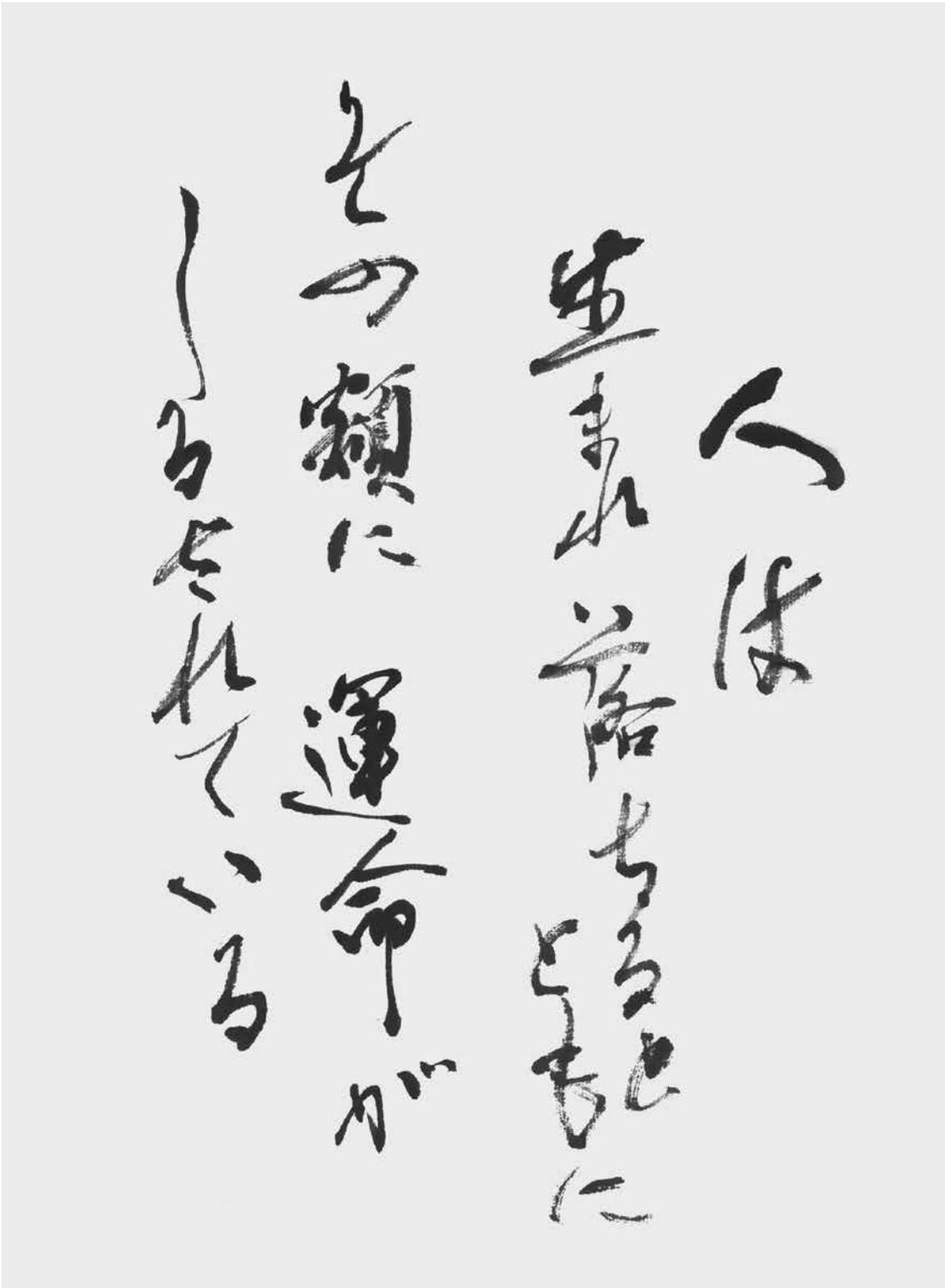
筆IIかな細字用筆

墨IIかな用和墨

紙IIかな用半紙

（習い方は25ページ）

永井香樹書



人は生まれ落ちるとともに、その額に運命がしるされている。

〈出典〉

「」の言葉！

生き方を考える50話

アラビアン・ナイト (Arabian Nights) アラビア地方を中心とした民間伝承説話を集大成したもの。成立年代・作者未詳。

〈解説〉

○行の長短、行間や字間の広狭、文字の大小、墨量の多少、潤濁等に変化をもたせて明るく表現しよう。

○余白が勝ると文字が萎縮し、黒が勝ると重くなったり騒がしくなります。余白は「要白」です。

○長時間の鑑賞に比べられる作品が出来上がるよう、工夫しましょう。

○本文と氏名の間は、余白を活かしてまとめましょう。

【用具・用材】

筆Ⅱ和筆 小筆全部おろす

墨Ⅱ和墨

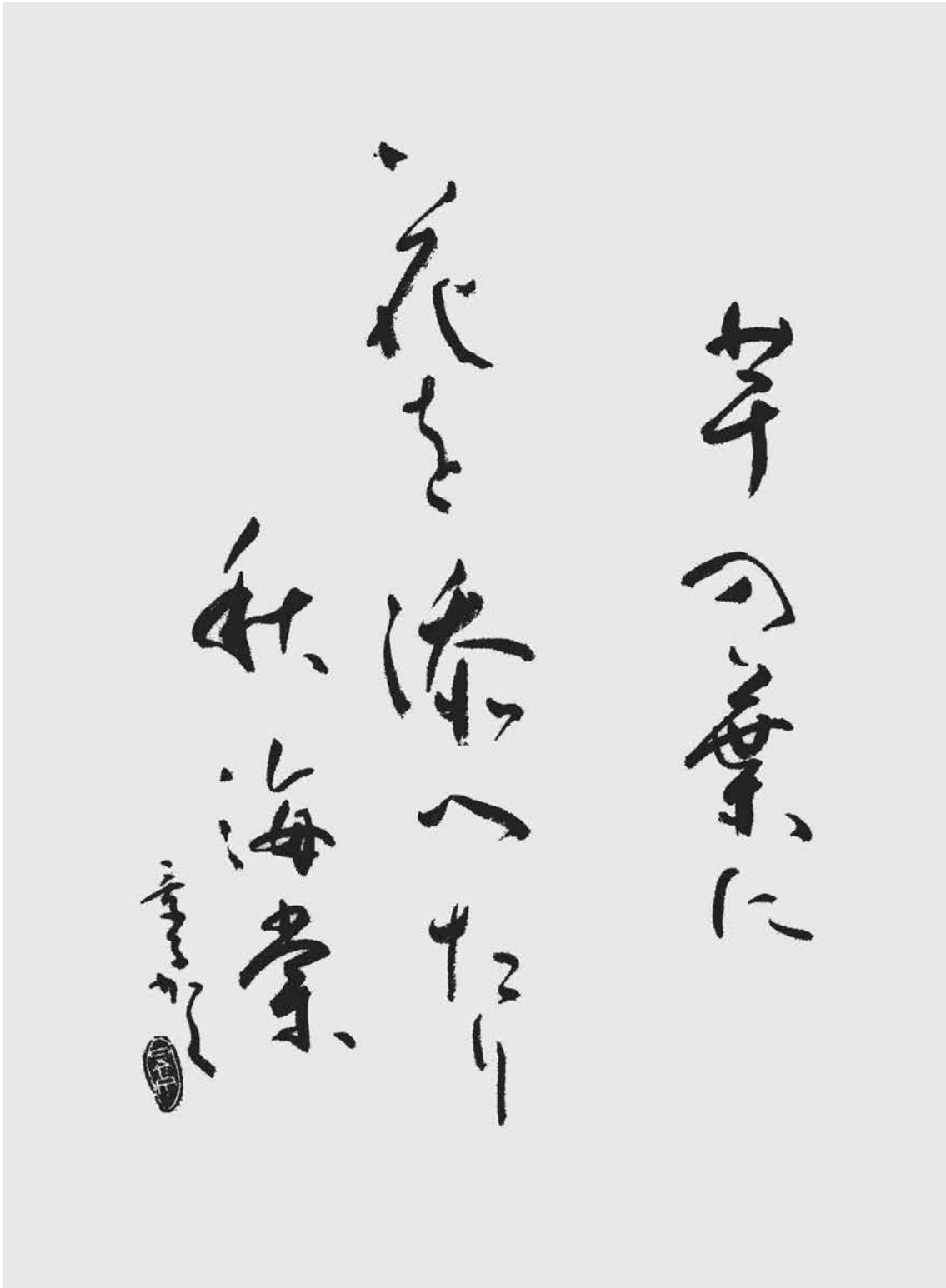
紙Ⅱ漢字用手漉半紙

(習い方は25ページ)

新和様半紙（1級Ⅱ昇段課題、2級Ⅴ10級Ⅱ月例課題）

参考手本 ※半紙を縦にして使用

甲谷景子書



芋の葉に花を添へたり秋海棠しゅうかいだう

〈出典〉

「荷風俳句集」

〈作者〉

永井荷風（一八七九～一九五九）

〈大意〉

芋に交ざって秋海棠の華が、滅多に花の咲かない芋に花を添えているようだ。

〈解説〉

○行脚を揃えない・二群にするなど、構成をきちんとおさえてから書きましょう。

○まん中の行は、渴筆で大らかに展開しつつ、下に行くにつれて墨量が減るように工夫しましょう。

○「添」と「秋」が並ばないように、配字にも気を配りましょう。

○墨汁のような黒々とした墨色でなく、磨って美しい墨色で書いて下さい。

○「○○かく」は紙面の収まり具合によっては入れなくてもよいです。

【用具・用材】

筆Ⅱ和筆 羊毫

墨Ⅱ和墨

紙Ⅱ松雪

（習い方は25ページ）

漢字条幅 専門部 (五段) 準初段 II 昇段課題) 参考手本

(用紙 画仙紙半折・たて 136 cm × よこ 35 cm)

微風蕭蕭吹菰蒲／開門看雨月滿湖

微風蕭蕭吹菰蒲／開門看雨月滿湖

〈読み〉微風蕭々として菰蒲を吹き、門を開きて雨かと看れば月湖に満つ。〈作者〉蘇軾(宋代詩人一〇三七〜一一〇二)

〈大意〉微風が蕭々として菰蒲を吹き、外を見れば月が湖一面を照らして、雨かと思つたのは風の音であった。

(解説は26ページ)

林田香濤書

漢字条幅 (1級 II 昇段課題、2級〜10級 II 月例課題) 参考手本

(用紙 画仙紙半折・たて 136 cm × よこ 35 cm)

胡鷹白錦毛

胡鷹白錦毛

〈読み〉胡鷹 白錦毛 〈作者〉李白(七〇一〜七六二) 〈出典〉中國詩人選集「李白上」岩波文庫

〈大意〉都から遠く離れた未開の地に産する鷹は、白色で模様のある毛が美しい。

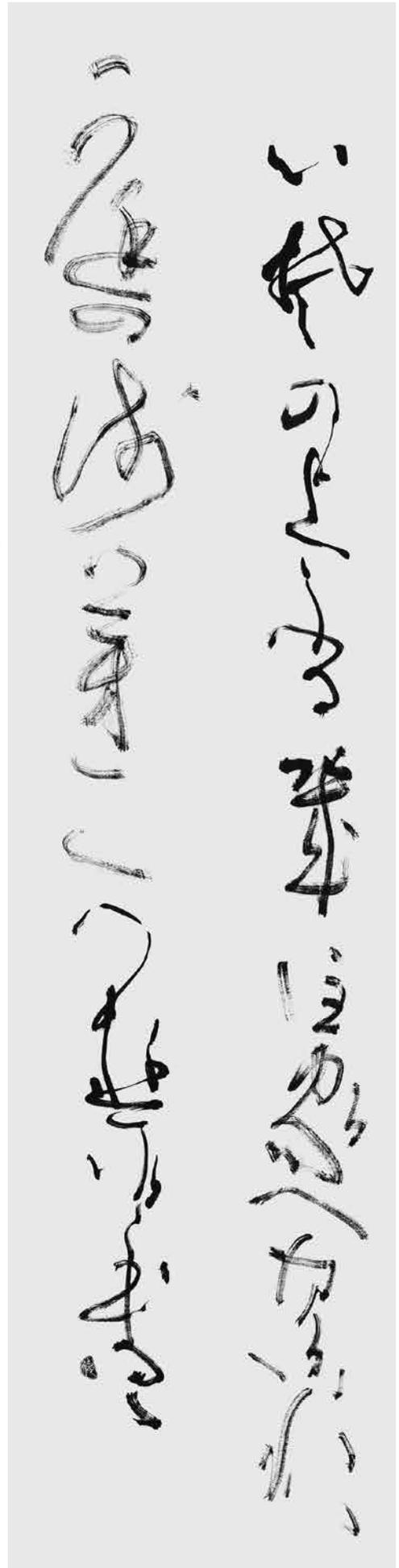
(解説は26ページ)

小久保嶺石書

かな条幅 専門部 (五段〜準初段II昇段課題)

参考手本 ※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由

(用紙 かな用画仙紙半折・たて136cm×よこ35cm)



(解説は26ページ)

中村清徳書

かな条幅 (1級II昇段課題、2級〜10級II月例課題)

参考手本

※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由 (用紙 かな用画仙紙半折・たて136cm×よこ35cm)



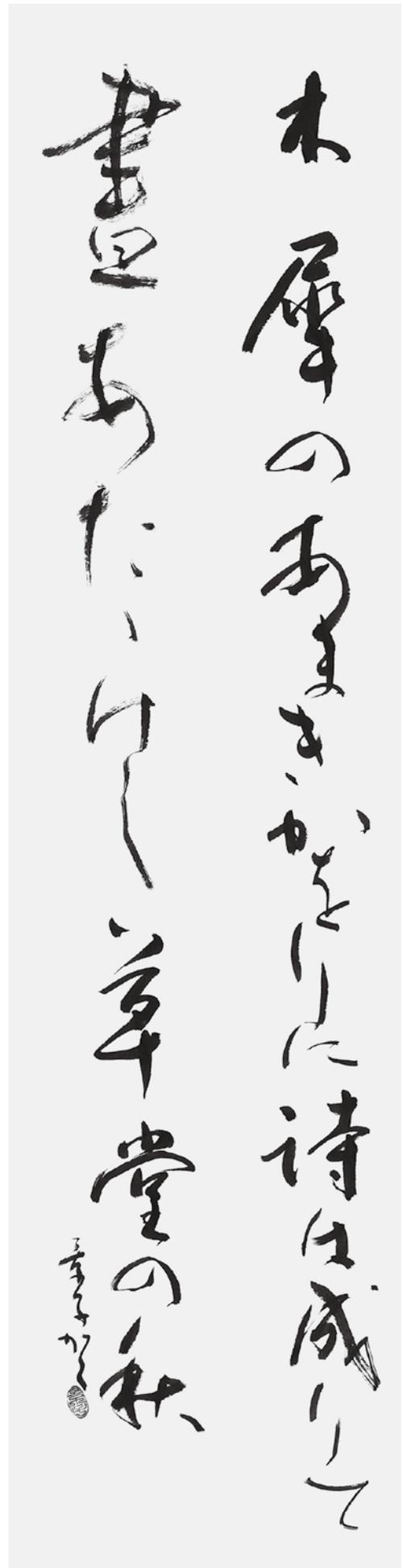
(解説は26ページ)

内堀信嶺書

ちぎりきなかたみに 澁き柿二つ

〈読み〉ちぎりき那賀多三三二し 婦支柿二つ 〈作者〉大伴大江丸(二七二二〜一八〇五)

〈大意〉甘いものと確信しあっていたのに、互いに澁い柿を一つずつちぎり取ったことですね。



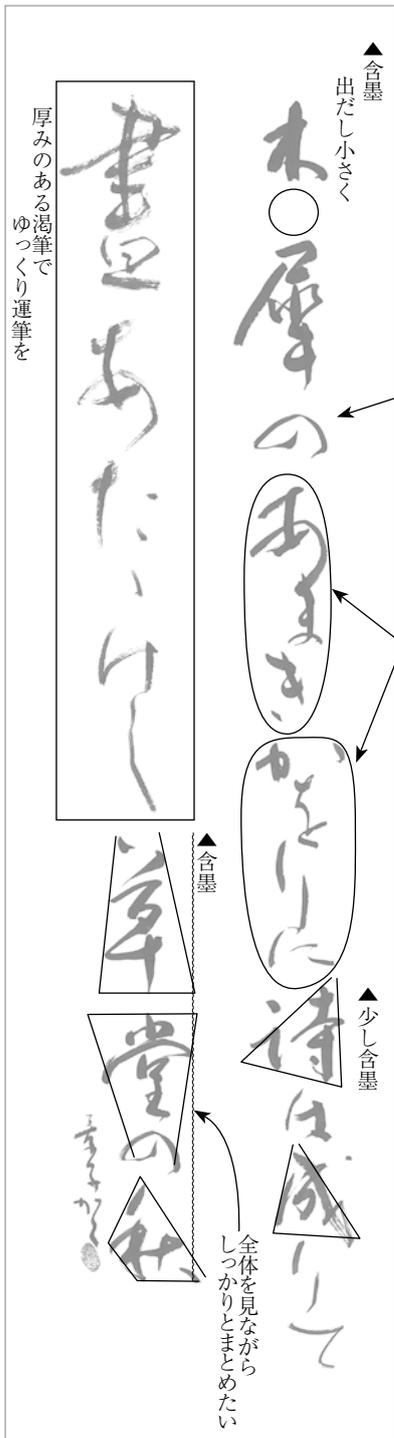
甲谷景子書

木犀のあまきかをりに詩は成りて昼あた、けし草堂の秋

〔作者〕尾上柴舟(一八七六〜一九五七) 〔出典〕「現代歌集」(筑摩書房)より 詩歌集「銀鈴」

〔大意〕庭の金木犀の甘い香りに気分も高揚して詩歌が生まれることだ。この暖かな草堂にて。

※草堂：草ぶきの家。草庵。自分の家をへり下ってという語。



「犀」に軽く添えるように 二つのかたまりを意識して書く

▲含墨 出だし小さく

▲少し含墨

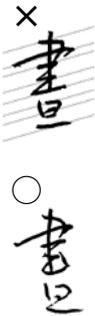
▲含墨

全体を見ながらしっかりとまとめた

厚みのある渴筆で ゆっくり運筆を

※昼の旧字体「晝」

・一字の中の太細を出す
・横画全部同じ向きにならないように



〔解説〕

○漢字とかなを調和させ、自然な流れになるように心掛けたい。

○疎密の変化と潤渴の変化も出し、作品が立体的にみえるようにしたい。

○一字の中の太細の変化も表現し、大きな流れの中にも、一字一字を丁寧を書くことも大切。

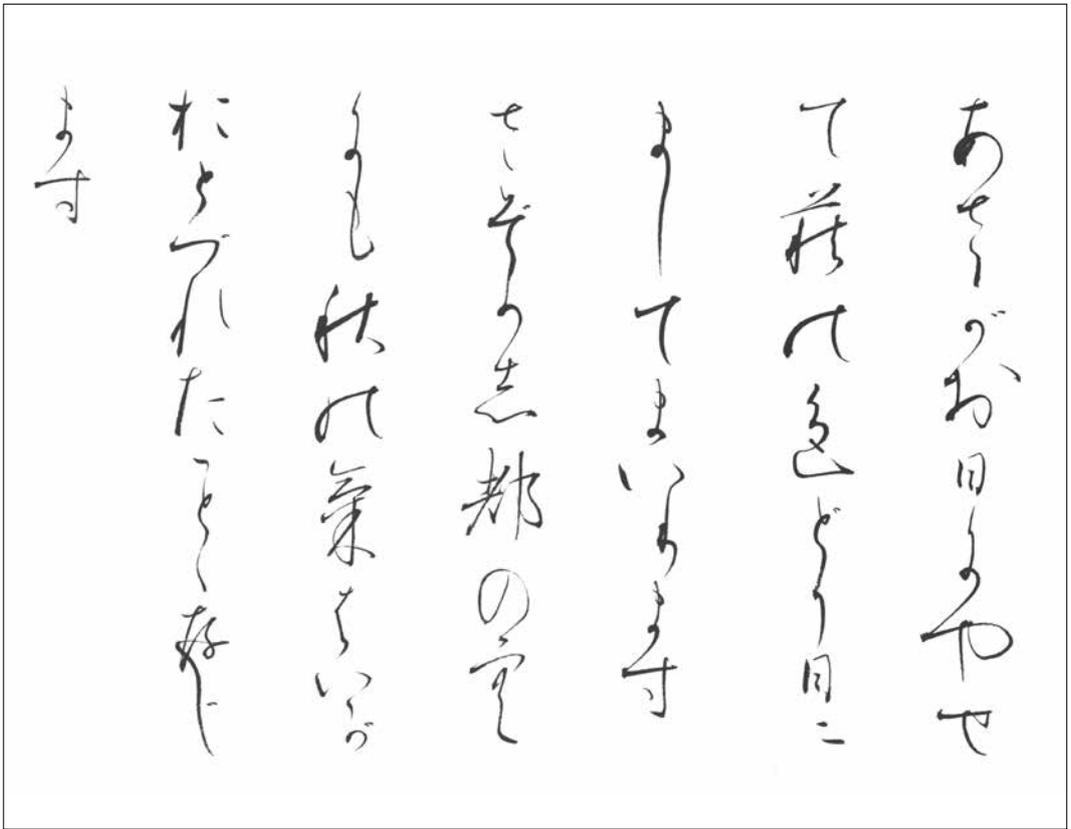
これは参考手本ですので、臨書するのではなく、これを参考にして、自身で創作するような積極的な気持ちで作品づくりをしてください。

【用具・用材】

筆Ⅱ長鋒羊毫 墨Ⅱ和墨
紙Ⅱ一番唐紙

実用書（随意課題）

梅雪手紙帖より（安東聖空）



あさ可^がお日^に尔^にやせて萩能^の色^のどり日^に二末^にして未^に利^に末^に寸^す。
さぞ可^か志^か都^しの空^に尔^にも秋能^の氣^の者^はい可^が於^がとづれた^おこと、存^まじ末^ま寸^す。

○出品用紙は、下側に示した清書用紙でも、これをコピーして書いても結構です。洋紙に書くことをここでは原則とします。（今月号のものを使用してください。）

・月別出品券（67 ページ）とバーコード出品券（段級欄に「実用」と記入）を左下に貼付してください。

- 参考の小筆
- ・玉梓
- ・選毫圓健

切りとって提出してください（コピーも可）

教室名	
氏名	

月別出品券を貼る

書 蹟 解 説

『真草千字文』 P.2

漢字半紙（五段〜準初段・1級〜5級）

梁の周興嗣がつくった千字文を真書（楷書）と草書の二体に書写したもので、毎行十字よりなり、標題二行と本文二百行、計二百二行ある。

筆者は隋の僧侶・智永（生没年不詳）。書聖・王羲之の七代の孫といわれる。智永は楷行草いずれの書体も能くし、彼の書への熱意は大変なもので、永欣寺に三十年間閉じこもって千字文を書き続け、使い古しの筆が大きな籠五杯分にもなったなどの伝説が伝わるほどの名品である。特に千字文をよく筆写し、遣隋使によって日本にも請求しているという。

『関戸本古今和歌集』 P.6

かな半紙（五段〜準初段）

古今和歌集の写本で、加賀前田家旧蔵、のちに名古屋の関戸家に伝わったことから、この名称がある。緑・茶・紫などの鳥の子の染紙を糸綴じの冊子としたもので、もとは上下二冊であったとされている。十一世紀後半ころの書写と考えられ、伝藤原行成筆とされ、その書風は流麗で筆遣いに俯仰法が見られ、自然な筆致で潤渇の変化も美しい。なお、関戸家には巻一から巻二十まで四十八枚が、とびとびながら遺っている貴重な写本の一つである。

『粘葉本和漢朗詠集』 P.8

かな半紙（1級〜5級）

藤原公任（九六六〜一〇四一）の手になる朗詠用の歌集。四季別、主題別に漢詩と和歌を交互に記す珍しいスタイルの歌集である。

粘葉本はその写本の一つで、ページ同士を糊で次々と貼りつけて本にする「粘葉装」で装丁されていることからその名がある。現在は宮内庁三の丸尚蔵館に所蔵されている。書写者は平安時代の名書家、小野道風・藤原佐理と並び「三蹟」として著名な藤原行成（九七二〜一〇二八）と伝えられている。

名筆家として讃えられた人物の筆と伝えられた本書は、その形の美しさと流れるような巧みな構成から、高野切と並びかな臨書に広く使われている。

岡山高蔭（二八六六〜一九四五） P.19

かな半紙（会友〜準八段）

書家、歌人。号は話雲。尾張の人で、良家の子女に書道を指導し、藤岡保子、熊谷恒子、森田竹華らを輩出した。

書を巖谷一六に学び、同時に和歌を小出繁に学び、御歌所にも奉仕、「高蔭百首」、「高蔭千首」を著した。また晋唐の書に和様の筆意を加え、独自の雄渾な仮名文字を書いた。

課題（P19）は、徒然草第十九段。複数巻ある折帖のうちの第五巻。1ページに1行認められており、1ページは縦二八・二cm、横八・〇cm。

◆次号10月号課題予告

かな半紙

五段〜準初段…秋乃夜盤露こ曾こと尔わびし遣れ久
佐むらごと尔虫の玉ぶれ八
支み志のぶ久佐尔や徒る、ふる佐と盤
万つむしの年所かなし可利介類
（関戸本古今集）

1級〜5級……み那可美能さだめて介れ盤支み可よに
ふ多、びすめるほり可はのみづ
（曾祚義忠）

6級〜10級……ねてゐの阿ら あり那と尔は
よろらてそつ
（粘葉本和漢朗詠集 520）

新和様半紙

五段〜準初段…ああ、何だつてこんなになくさん私に
関係のないものがあるんだらう
（ソクラテス）

1級〜10級……すゝり泣くオオロンの音の夜長哉
（永井荷風）

漢字条幅

五段〜準初段…未定
1級〜10級……對酒不覺暝
（李白）

かな条幅

五段〜準初段…心なき身にもあはれは知られけり鳴
たつ澤の秋の夕ぐれ
（松尾芭蕉）

新和様条幅

五段〜準初段…人とわれ黙しても立つ磯の上波まらら
かに走りて還る
（窪田空穂）

※課題は変更することがあります。
※会友〜準六段の課題予告は18頁をご覧ください。

今月の競書課題

専門部

会友↗準会友↗月例課題
八段↗準八段↗昇格↗昇段課題

今月の出品期間 8月29日(月)～9月6日(火)必着

漢字半紙

左の語句を、半紙を縦使用、自運縦書き。(書体自由)

月到天心處

月到天心處

〔出典〕『鳴鶴作品草稿集Ⅰ』より 邵康節(北宋)「清夜吟」

〔読み〕月天心に到る処

〔大意〕月が天の中心にかかった頃。

かな半紙

岡山高蔭書『つれくくさ』臨書

課題は次ページに掲載しています。

新和様半紙

左の短歌を、半紙を縦使用、自運縦書き。

(漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重)

君に文書かんと借りしみよし野の竹林院の大硯かな

〔大意〕吉野の竹林院の宿で、恋しい彼に手紙を書こうと借りた大きな硯が

思ひ出される。

〔作者〕与謝野晶子(一八七八～一九四二)

〔出典〕与謝野晶子歌集より「佐保姫」(岩波文庫)

10月号課題予告	
漢字半紙	菊松多喜色 (鳴鶴作品草稿集Ⅰ)
かな半紙	岡山高蔭書『つれくくさ』
新和様半紙	あたゝかき日を端居して庭を見る秋の芽長きこと二三寸 (正岡子規)
漢字条幅	垂成穉事苦艱難 忌雨嫌風更怯寒 (鳴鶴作品草稿集Ⅱ 范成大)
かな条幅	山の端に雲の横ぎる宵の間は出でて月ぞなほ待たれける(新古今和歌集414)
新和様条幅	海苔の田は上潮寒き海菜の間に逆さの不二が白う明り来 (北原白秋)

※課題及び課題の文字は変更することもあります。

漢字条幅

左の語句を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。(書体自由)

借與門前磐石坐

柳陰亭午正風涼

借與門前磐石坐
柳陰亭午正風涼

〔読み〕門前の盤石を借与して坐せしむ。柳陰亭午正に風涼し。

〔大意〕門前の平たい腰掛け石に坐らせてやると、丁度昼時で柳の陰になつており涼しい風が吹いている。

〔出典〕『鳴鶴作品草稿集Ⅱ 范成大 田園四時雜興』

かな条幅

左の和歌を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。(変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由)

松島やしほ汲む海士の秋の袖月はもの思ふならひのみかは

〔大意〕ここ松島の潮を汲む海人のぬれた秋の袖よ。月は物思う人の習いの、

涙にぬれた袖に映るとばかりは限らないことだ。

〔出典〕新古今和歌集 巻第四 秋歌上401 鴨長明

新和様条幅

左の短歌を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。(漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重)

溪に見れば人間も自然のよい一部だ日がかがやいて波が揺れてる

〔大意〕雄大な溪谷の中では、人間も自然の一部である。谷川の水が太陽の

光で揺れ、輝いて見える。

〔作者〕北原白秋(一八八五～一九四二)

〔出典〕北原白秋歌集より「海阪」(岩波文庫)

自運↗与えられた課題語句を自運作品として用紙と筆を選び墨の磨り工合を工夫し、書作品として造型すること。それ故、先生に手本を書いてもらうことは避けたい。作品制作に当っては、古典からの集字などを試みて始めるのもよい。参考図書としては、現代字体字典(講談社)、五體字類(西東書房)、大字典(講談社)、古典かな字鑑(書藝文化新社)、広辞苑(岩波書店)、古語辞典(旺文社)などを見たい。

かな半紙 専門部 (会友) 進会友11月例課題、八段(準六段)昇格・昇段課題)

左の「多之所遠可し」から「なと尔事」迄四行を半紙を欄に使用して臨書しなさい。

※徒然草第十九段から

野分のあしたこそをかしけれ。言ひつゝくれれば、皆源氏物語・枕草子などに事ふり
にたれど

(大正時代の文部省中等教員資格認定試験委員
岡山高陰書による『れくさ』折帖手本の二部)



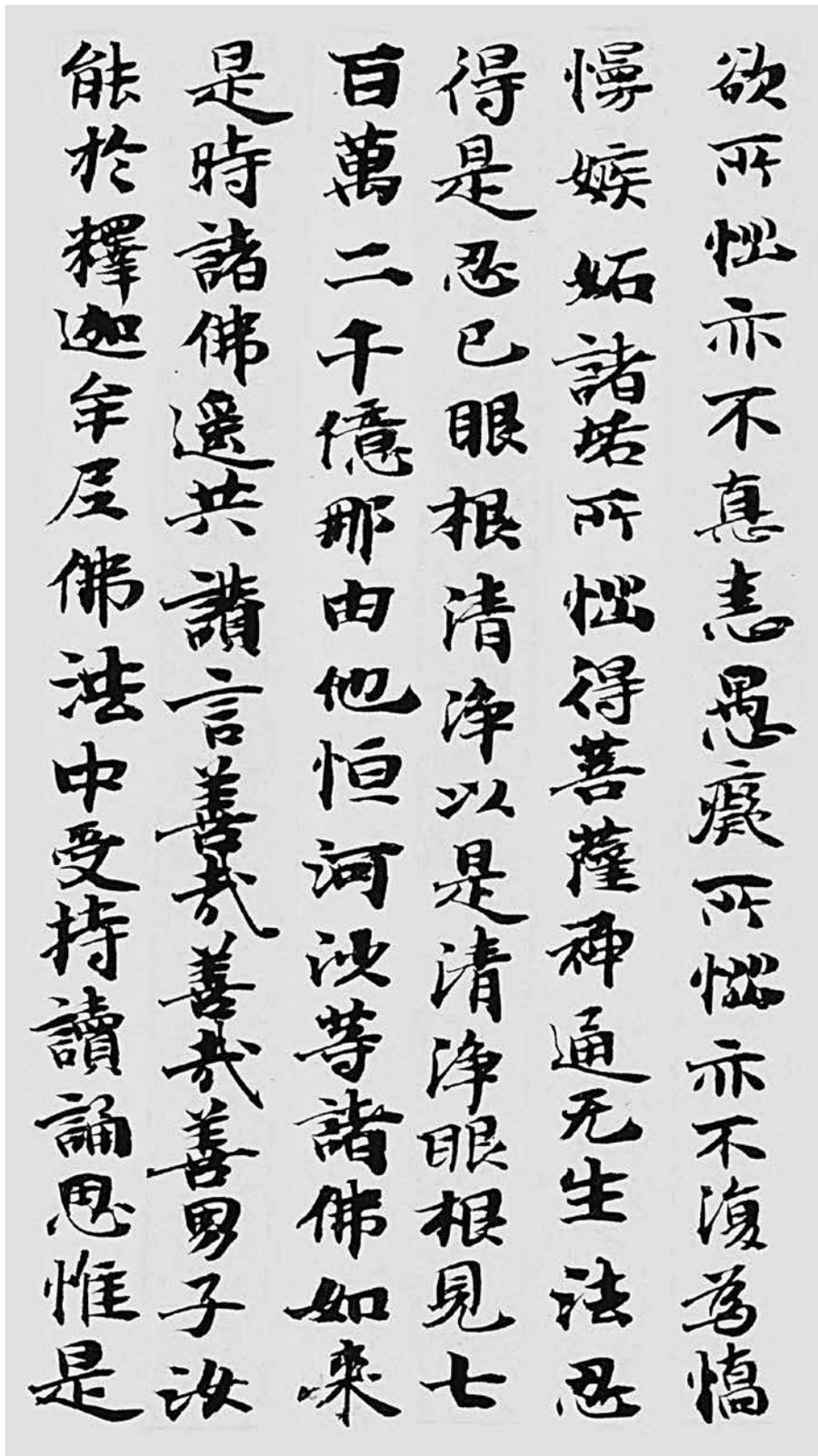
原寸は縦二八cm横三cm(原寸に近い大ききで書くこと)

○一級以上の方はこうした課題を見て、釈文などで親しめるようにしておきたい。また、その為に背臨を試みて覚え込んでも欲しい。

月別出品券と バーコード出品券の貼り方	
④	教名氏名 皆源氏物語 社公之 月別出品券
③	①月別出品券 ②バーコード出品券

欲所惱~乃至菩薩の百九十二字を清書して出品。

國寶 法隆寺傳來細字法華經 (擴大率二倍)



6 5 4 3 2 1

(不復爲、貪)
 欲所惱、亦復不爲、瞋恚愚癡所惱、亦復不爲、憍
 慢嫉妬、諸垢所惱、得菩薩神通、無生法忍、
 得是忍已、眼根清淨、以是清淨眼根、見七
 百萬二千億、那由他、恒河沙等、諸佛如來、
 是時諸佛、遙共讚言、善哉善哉、善男子、汝
 能於釋迦牟尼佛法中、受持讀誦、思惟是

(復、貪欲のために)
 (貪) 欲のために悩まされず、亦復、瞋恚・愚痴のためにも悩まされず、亦復、
 憍慢・嫉妬の諸の垢のためにも悩まされずして、菩薩の神通と無生法忍とを得ん。
 この忍を得已りて、眼根は清淨ならん。この清淨たる眼根をもつて、
 七百万二千億那由他の恒河の沙に等しき諸仏・如来を見たてまつらん。
 この時、諸仏は遙かに共に讃めて言もう『善哉、善哉、善男子よ、
 汝は能く釈迦牟尼仏の法の中において、この經を受持し読誦し思惟して、

(6-14) (5-10) (4-14) (4-6) (2-16) (2-5) (1-3)
 思 哉 佛 那 忍 垢 惱
 (6-8) (5-5) (3-8) (2-11) (1-16)
 法 遙 那 淨 神 惱

○この細字法華經は日本に帰国する留学僧に急ぎ浄写されて托したと伝えられているが、通常の大さに拡大されて書いても、いさ、かも線のゆるみもなく、すばらしい。速書による行意もあるので蓮筆のリズムを修得すると、よく浄写されると思う。

〔解説〕 小久保嶺石

經、爲他人說、所得福德、無量無邊、火不能燒、水不能漂、汝之功德、千佛共說、不能令盡、汝今已能、破諸魔賊、壞生死軍、諸餘怨敵、皆悉摧滅、善男子、百千諸佛、以神通力、共守護汝、於一切世間、天人之中、無如汝者、唯除如來、其諸聲聞、辟支佛、乃至菩薩、(智慧禪定。無有與汝等者、)

他人の爲に説けり。得たる所の福德は無量無辺なり。火も焚くこと能わず、水も漂わすこと能わず。汝の功德は千仏、共に説きたもうとも尽くさしむること能わず。汝は今已に能く諸の魔の賊を破り、生死の軍を壊し、諸余の怨敵をも皆悉く摧き滅せり。善男子よ、百千の諸仏は神通力を以て共に汝を守護したもう。一切世間の天・人の中において汝に如く者無し。唯、如來を除きて、その諸の聲聞・辟支仏乃至菩薩の(智慧・禪定も、汝と等しき者有ること無からん)と。

經爲他人說所得福德无量无边火不能
 焚水不能漂汝之功德千佛共說不能令
 盡汝今已能破諸魔賊壞生死軍諸餘怨
 敵皆悉摧滅善男子百千諸佛以神通力
 共守護汝於一切世間天人之中无如汝
 者唯除如來其諸聲聞辟支佛乃至菩薩

12	11	10	9	8	7
(12-8)	(11-3)	(10-1)	(9-9)	(8-9)	(7-5)
聲	護	敵	賊	德	說
(12-10)	(11-9)	(10-7)	(9-16)	(8-15)	(7-13)
辟	間	男	怨	能	邊

全文音読して和漢混淆文の響きの美しさに触れましょう。
 図版中文字で、判然としないところは、經典の「釈文」中の同字の書き方に倣って書きます。

清書の氏名の後に「謹寫」または「敬寫」の二字を書き添えます。

石橋暉水先生書

不二細字研究室(會友・寫經會友・準會友三月例課題、八段～1級昇格・昇段課題)

下の「般若心經」か、前頁「法華經」(見開き12行)一巻のどちらかを出品してください。

摩訶般若波羅蜜多心經	觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五	蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不	異色色即是空空即是色受想行識亦復如	是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨	不增不減是故空中无色无受想行識无眼	耳鼻舌身意无色声香味觸法无眼界乃至	无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死	亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无	所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无	罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢	想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故	得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜	多是大神咒是大明咒是无上咒是无等等	咒能除一切苦真實不虚故說般若波羅蜜	多咒即說咒曰	揭諦揭諦波羅揭諦波羅揭諦菩提薩婆訶	般若心經	奉為二百萬卷寫經發願成就	為 <small>(詳細は名書へだす) 果條例 ● 兼行安全 ● 兼行機全 ● 兼行成就等</small>	住所	齋戒沐浴 氏名 謹寫
------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	--------	-------------------	------	--------------	--	----	---------------

※納経料を添えてご出品下さい

延命十句観音經

觀世音南無佛与佛有因与佛
有縁佛法僧縁常樂我浄朝念
觀世音暮念觀世音念念從心
起念念不離心

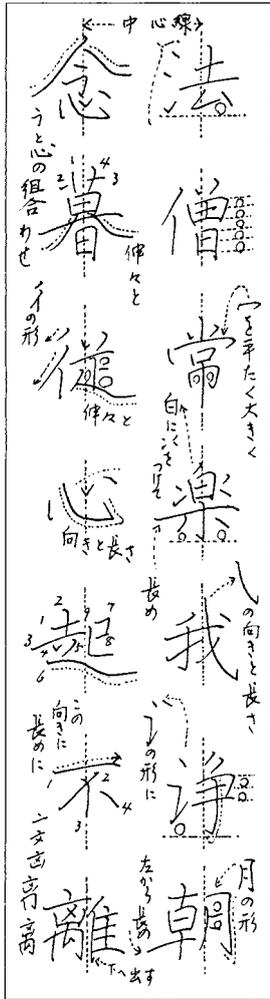


百萬卷寫經數願成就

住所

氏名

敬寫



〈読み〉

〈大意〉

延命十句観音經
観世音 南無佛 与佛有因 与佛有縁 佛法僧縁 常樂我浄
朝念観世音 暮念観世音 念念從心起 念念不離心

観世音 仏に南無したてまつる 仏と因あり 仏と縁あり 仏と法と僧と
の縁によつて 常・樂・我・浄の四徳を得ん 朝な朝なに観世音を念じ
夕な夕なに観世音を念じ 念々、心より起こり 念々、心を離れず。

不二細字研究室 出品規定

昇段試験月は、八段~1級の方は出品すると昇段試験の対象になります。昇段試験を受けたい方は出品しないでください。

試験や月例競書にご出品の作品には、バーコード出品券と月別出品券を作品の左下に貼付してください。

■会友・準会友の方 ↓ 月例出品

- ① 出品料は無料ですが、必ず「納経ください」。(納経料11500円)
- ② 会友・準会友は本誌掲載の「法華経」または「般若心経」を書いて出品。
- ③ 会友・準会友の区別を赤字でバーコードに記入してください。

■八段~1級の方 ↓ 昇段試験

- ① 本誌掲載の「法華経」または「般若心経」を書いて出品。
- ② 昇段試験は新しく認定された段級で発表します。今回は発表された段級を(段は赤の漢数字、級は黒の算用数字で)バーコードに記入してください。

■2級~10級の方 ↓ 出品料は無料です。 月例出品

- ① 「延命十句観音經」を書いて出品。
- ② 昇級者に○をつけて発表します。昇級者は次回、発表された二つ上の級位を(黒の算用数字で)バーコードに記入してください。
- ③ 初出品の方は10級で出品してください。

■編入試験 細字研究室 編入試験料11,400円

- ① 2級~10級の課題を書いて出品。
- ② 編入用バーコードに「編入」と赤字で記入してください。
- ③ 審査後、相当段級に編入します。次回は発表された段級で出品してください。
- ④ 試験料免除については本誌「編入試験のご案内」に準じます。

■用紙 三多軒で用意しております。(03-3265-5493)

「般若心経」用(20枚、100枚) 「延命十句観音經」用(100枚)

*詳しくは、三多軒へお問い合わせください。

〒101-8358 東京都千代田区西神田 二丁目三

公益財団法人日本書道教育学会「写経事務局」宛(傍線は赤字)

*写経作品は他の月例競書とは別にして下さい。

■納経について

納経をご希望の方は一巻につき5000円を郵便振替でご入金の上、「郵便振替払込受付証明書」を写経作品に添えてお送り下さい。

03-3234-3919

03-3234-3919

加入者名(財)日本書道教育学会 写経事務局

03-3234-3919

*令和三年四月一日より、口座番号が変更となりました。

*納経料の振込手数料は各自負担となります。今までの振替用紙はお使いいただけます。郵便局に備え付けの振込用紙をお使い下さい。

きりとり

納経連絡用紙

公益財団法人日本書道教育学会
二百萬巻写経実践推進委員会事務局

住	納経者氏名	ふりがな
所		
〒		
電話番号	雅号	ふりがな
() () () () () ()		

※初めて納経される方は、お写経を添えて一緒に写経事務局にお送りください。
芳名録の作成に使用させていただきますので、ご協力ください。

不二篆刻研究室

▼規定：左の語句を刻しなさい。(朱白自由・大きさは4センチ角以内)

窮理盡情

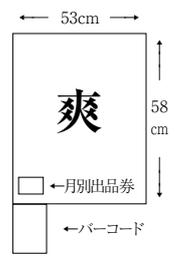
〈読み〉理を窮め情を尽くす
 〈大意〉天理を窮め、誠心を尽くす。

▼随意：好きな語句を刻しなさい。(朱白自由・大きさは4センチ角以内)

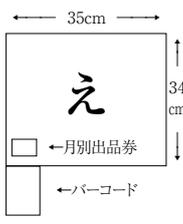
○作品は「半紙横^{1/2}」を縦長にして体裁よく押印し、印影を提出。
 ○巻末の出品要項をよく読んでご出品ください。

一字書

▼規定：左に示す漢字を一筆書として墨継ぎすることなく「書」しなさい。(書体自由)



〈読み〉「音」ソウ 「訓」さわやか・あきらか
 〈意味〉あきらか。さわやか。間違える。損なう。
 〈おすすめの利用紙〉
 萬象 50枚 (夾宣)
 作品の左下に教室名・氏名・会員番号・段級を鉛筆で記入のこと。



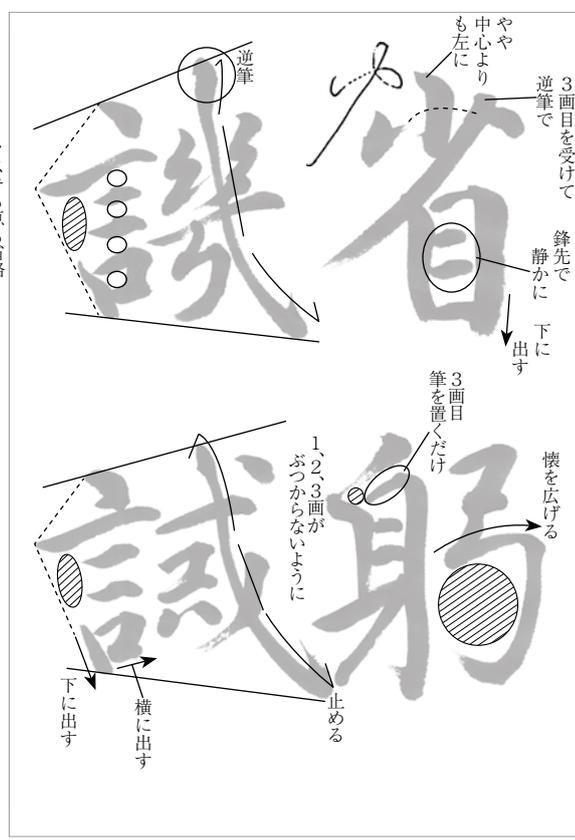
▼随意：左に示す平がなに運筆の呼吸を吹き込んで生命ある字に仕立てなさい。(書体自由)
 仮名の成り立ちや草書の「衣」の書法、筆遣いも考えて創作すること。
 〈おすすめの利用紙〉
 一字書 100枚 (夾宣)
 特選一字書 100枚 (夾宣)
 作品の左下に教室名・氏名・会員番号を鉛筆で記入のこと。

○バーコードは、段級欄に「二字書規定○段(級)または「一字書随意」と書いて貼付してください。(規定の方は段級を忘れずに)
 ○落款は印のみか一字に雅印ぐらいで。
 ○巻末の「競書出品要項」をよく読んでご出品ください。

課題解説

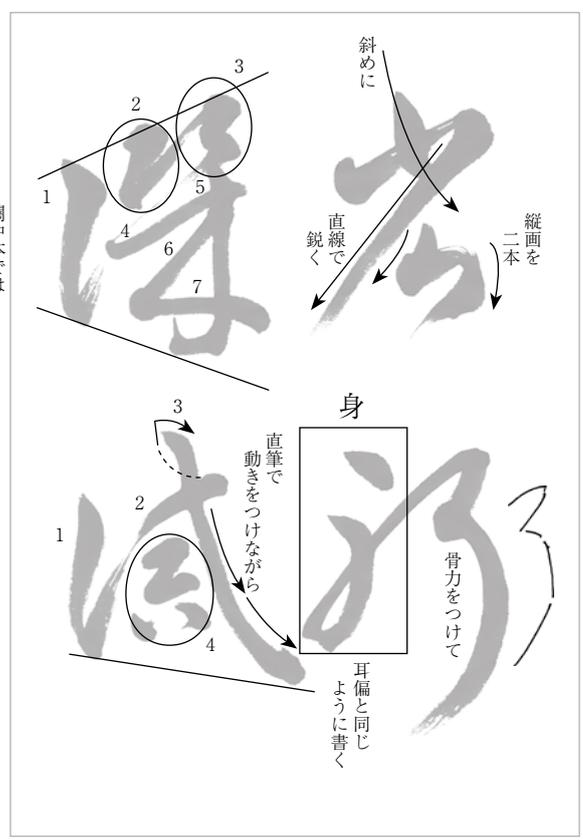
今月の出品期間
 8月1日(月)～8月9日(火)必着

漢字半紙 1級～5級 (真草千字文)



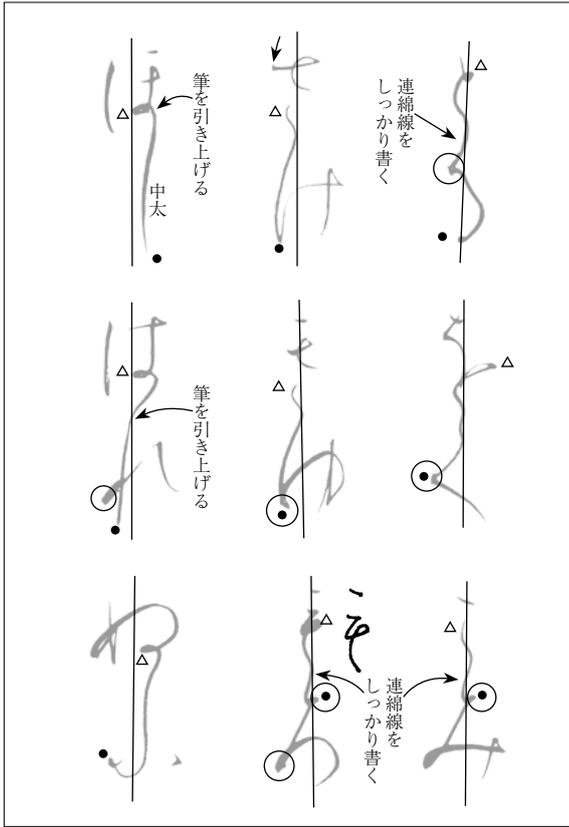
(小久保嶺石)

漢字半紙 五段～準初段 (真草千字文)



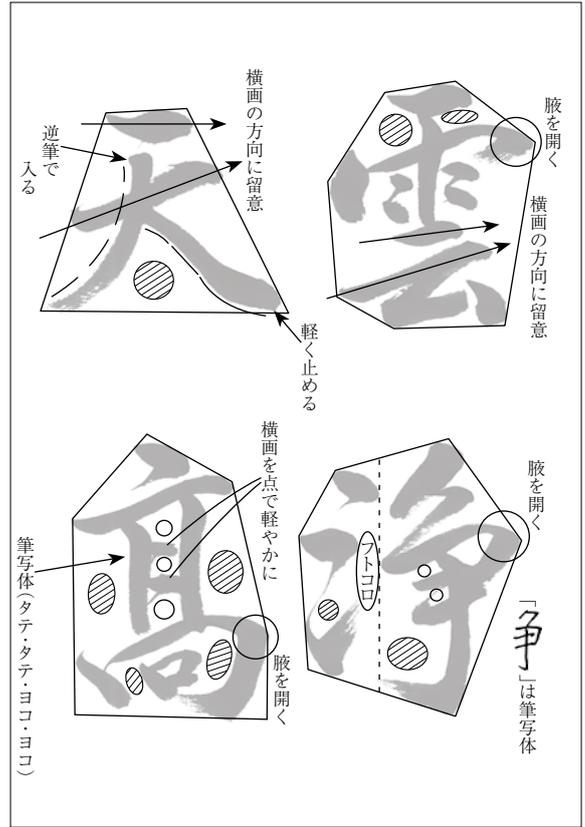
(小久保嶺石)

かな半紙 6級～10級



(川島史子)

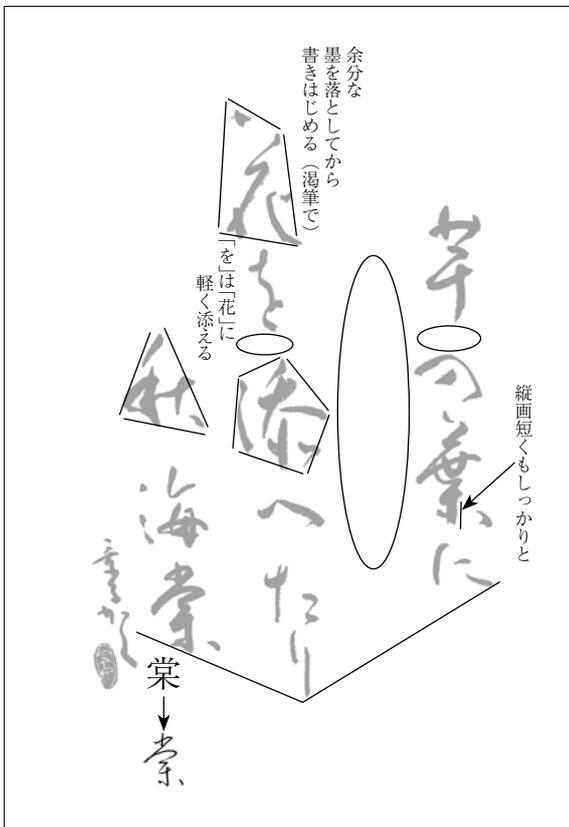
漢字半紙 6級～10級



(小久保嶺石)

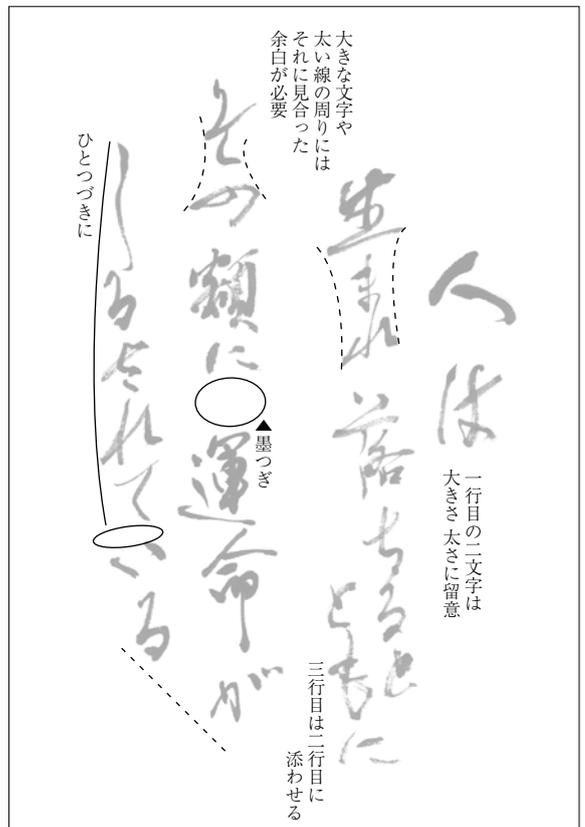
起筆は鋒先を上にして、すつと入る。
△から・まで、線を切らずに続けて書く。
○は、筆をしっかりと当てて面を返す。

新和様半紙 1級～10級



(甲谷景子)

新和様半紙 五段～準初段



(永井香樹)

漢字条幅 五段〜準初段

(林田香壽)

作品を構築していく上で、各行の芯(柱)のようなものをしっかりさせることは大切であろう。今回はそのことを意識しながら、颯爽とした律動を目指した。

リズムは終りまでブレずに貫通しているだ



漢字条幅 1級〜10級

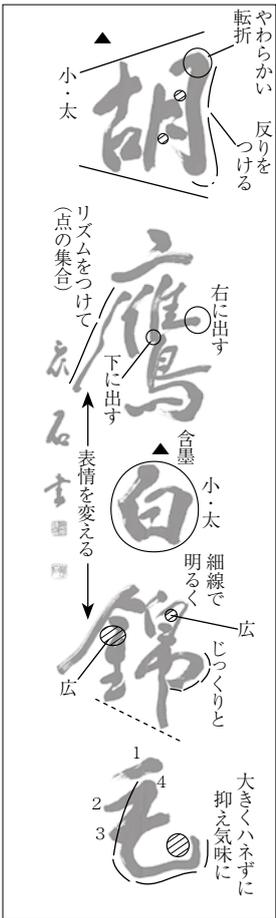
(小久保嶺石)

○半切五文字作品として適切な筆のサイズや墨量を知る。

○それぞれの文字の大きさの見当をつけて、バランス良く紙面に収める。本文を書いた筆で落款を入れる。

胡：まず含墨し、小ぶりだが肉太に表現。月の2画目は内側に反らせて引き締め

鷹：3画目の垂れは、力を抜いて鋒を吊り上げながら点で線を作るように。画数の多い字だが、細線を効かせて長形に



ろうか。

○その貫通力は弱くはないだろうか。

〈用具・用材〉

筆Ⅱ和筆・羊毫筆 墨Ⅱ和墨・油煙 紙Ⅱ中国画仙紙

してきりつと収める。

白：ここで墨を継ぎ、小ぶりでも厚みのある太い線で表現する。

錦：白の4、5画は素早く。巾は懐を広げながらじっくりと運筆する。

毛：4画目はやや左に向かい、収筆は鋒を持ち上げる程度の抑えた表現で。

〈用具・用材〉

筆Ⅱ和筆・羊毫中鋒 墨Ⅱ和墨 紙Ⅱ中国画仙紙

かな条幅 五段〜準初段

(中村清徳)

書き出しはかなで入墨し、「楚」の変体などで広がりをも！以下かな、変体かな、草書を交えつ、行の振幅を作る。二行目は思いついて、漢字草書体を使用して広がりを作り、結句では一行目の墨量を考えつ、かな、変体かなを交えて、行の振幅を考え、作品を引き締めて表現したい。



かな条幅 1級〜10級

(内堀信嶺)

○書き出しの上旬、墨量を少なく、思い切って渴筆にしてみました。

○上旬の配置・位置に留意してみました。

○行間を広げ過ぎたり、寄せ過ぎないようにしてみましょう。

○細部については、図解を見て、内容を理解の上、各自の感覚で書いて下さい。

〈用具・用材〉

筆Ⅱ紅霞大 墨Ⅱ和墨 紙Ⅱ和画箋

